

普及活動検討会実施報告書

仙台農業改良普及センター
 実施月日：令和3年2月2日
 実施場所：仙台合同庁舎1001会議室
 (単位：人)

1 検討内容

検討項目	
(1)	完了課題について NO.1 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性の向上 NO.3 GAPを活用した現場力の向上 NO.4 6次産業部門の改善による生産性の向上
(2)	令和3年度普及指導計画(案)について
(3)	継続課題について NO.2 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築 NO.5 先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定
(4)	新規課題について ○土地利用型法人によるえだまめ生産体系の確立 ○農村の維持発展を支える法人経営の体質強化 ○「シャインマスカット」の生産・販売力の向上による産地育成

2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	0
若手・女性農業者	0	学識経験者	1
市町村	3	マスコミ	0
農業関係団体	2	民間企業	0

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
(1) 完了課題について No.1 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上	4.4	<ul style="list-style-type: none"> 3か年のプロジェクト課題の取組の目標値を確実にクリアしており、具体の支援策も適確であったと思う。湛水直播の収量確保と定着に期待する。 直播栽培技術の向上がみとめられ評価できる。 直播技術の向上による単収増を評価する。 全体的に評価できる。特に経営継承に対して評価した。 経営承継という明確な目標に向けての活動進んでいると感じられる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 生産面、経営面から適切な指導が行われており、法人の経営発展に大きく寄与している。水稲直播と大豆栽培の改善により経営全体でどの程度効果があったかについても言及があれば良かったかと思う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 法人経営のモデルとなる取組である。水稲と大豆は一般的な作物もので経営継承は注目したいところであり、この事例をモデルとして他地域へも普及いただきたい。目標をクリアしている点は素晴らしいと思う。活動の成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 湛水直播栽培における目標の達成は、課題を明確にし、法人に納得してもらって取り組んだ成果と考えています。法人がさらなる増収を検討していることから、継続して技術支援をしていきます。 経営承継については、今後、経営承継計画に沿って具体的な準備に入ることから、法人の要望を把握して支援していきます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 直播栽培の面積は水稲作付面積の5%程度であるため経営への効果はまだ大きくないが、栽培技術が習得されたので、今後の規模拡大には容易に対応できると考えています。大豆の栽培技術の改善は大豆部門における年次ごとの収益目標の達成に繋がったと考えています。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 経営承継については、今後、他の法人も直面することが想定されるため、他の法人が経営承継に取り組む際に参考となる資料を作成する予定です。
No.3 GAPを活用した現場力の向上	4.4	<ul style="list-style-type: none"> GAPの理解が進んで、全従業員での改善の取組みが行われ始めたこと。今後この活動が事務所で継続されるようフォローが必要と思われる。安定した経営となるよう期待したい。 GAPに取り組むことで、従業員が様々な場面で自主的に取組、提案できるようになり作業改善が図られたことは評価できる。 GAPをパート従業員に理解させるのは容易ではなかったと思われ、そうした中で作業改善が図られたことは評価できる。 従業員による自主的な現場改善活動定着支援の取組が素晴らしい。 従業員の意識改善が出来たことを評価した。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> GAP導入について体系的に指導が行われ、顕著な効果が見られる。今後GAP導入を図る経営にとって非常に役立つ成果だと思われる。当初パート従業員にGAPについての理解が浸透していなかった要因は何だったのか。他法人についても非常に意義があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> GAPを理解することで作業改善に対して意識改善が図られるので、法人内の従業員研修を実施・定着できるよう支援します。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> パート従業員のGAPに対する意識の違いは、職位や経験年数に起因すると思われる。当事者意識が不足している傾向があります。全従業員の意識向上が自主的な作業改善活動に繋がるので、今後も法人内の従業員研修を実施・定着できるよう支援します。 管内で同様にGAPに取り組む法人等に対しても、従業員研修の方法等について情報提供します。
No.4 6次産業部門の改善による経営力の向上	4.9	<ul style="list-style-type: none"> 農家は生産・加工するだけで利益まで考えていないというのが継続のネックとなっていると思われる中で、利益率などの考え方が定着することで、継続経営につながると想像高く評価できる。今後の期待できる。 各商品等の現状把握は結構めんどろな事と思われるが、よく状況を把握し改善することで利益を増加させたことは評価できる。 様々な取組により、定性・定量目標を大きくクリアしていること。自主的な取組にも結びついていることは評価できる。 定量的目標を達成できたところが優れている。日本農業大賞おめでとうございます。 経営状況を把握し、営業利益の増加を評価した。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 普及活動により、営業利益が大きく増加し大変興味深い事例である。この増加要因を分析することは、研究的にも非常に意義があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の販売管理の継続とスピードアップ、顧客データベースを活用した拡販など中長期計画の実現に向けた新たな課題がでてきているので引き続き支援していきます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 営業利益の増加は各商品の利益率の改善と利益の大きい商品の販売量増加によるものですが、支援により対象者の現状把握が深まり、売上ではなく利益を意識した経営が行われるようになった事が大きな要因と考えています。

<p>(2) 令和3年度普及指導計画案について</p>	<p>4.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県等の基本計画に沿って、適切な指導計画案が作成されている。 ・ 現在の農家が直面する課題を捉えた活動計画になっている。今後の重点課題としては農業をいかに魅力のある農業として新規就農・担い手確保が最大の課題として認識している。よろしくお願ひしたい。 ・ 方向性が正確に捉えられており、活動を期待したい。市町村としても共に取り組んでいきたい。 ・ プロジェクト課題や重点活動にしても農家の所得向上につながり担い手の確保・育成にもなるので評価した。 ・ 令和3年度もご指導よろしくお願ひしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手の確保・育成は重要課題であり、市町村、関係団体と連携して取り組んでいきます。
<p>(3) 継続課題について No.2 中山間地域農業を支える地域営農体制の構</p>	<p>4.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及センターを核として、支援機関をうまくコーディネートされきめ細やかな支援が行われている。園芸部門の導入も図られ、また法人化も実現し、大きな成果が見られる。 ・ 生産意識の低い地域の法人化支援まで誘導していくのが難しい中で、しっかり関係機関の支援体制を構築し、地域のやる気を発揮できたのは評価できる。 ・ 継続的な伴走型支援で着実に目標に向かってステップアップしていると感じる。支援体制も万全であり今後が楽しみである。 ・ 関係機関と連携し、法人化できた事や法人の支援について評価した。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の担い手となる法人ができたことはよかった。今後、組織運営等がうまく進められることを期待する。 ・ 中山間地域で栽培品目の選択や技術支援は難しい課題だが、今後とも支援をお願ひしたい。 ・ JA仙台としても継続支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農業構造に係る支援は、多くの法律や事業等も関係するため、関係機関との連携は必要不可欠です。今後も普及活動におけるコーディネート機能を十分に発揮し支援に努めたいと思います。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人設立したものの経営管理・運営についてはゼロからのスタートになるので、令和3年度はJA仙台営農支援課と連携し、法人経営の基礎固めを支援することとしています。
<p>No.5 先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定</p>	<p>4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進的な法人経営を対象にして、環境制御技術を中心にハイレベルな普及活動が行われている。法人側と普及側がどのような役割分担で、またどのような相互作用があったのかについての知見は、今後の先進的経営体を対象とした普及活動にとって有意義な情報になると思われる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風被害で仕切り直しを強いられたが、より活動が深化したように感じる。この取組は間違いなく経営安定化につながり、品質も向上すると思われる。さらなる支援による向上を期待する。 ・ 先進技術導入に併せた技術習得やデータによる見える化、マニュアルによる平準化等、先進の施設だけでなくそれを操り利用する社員の育成が図られている。 ・ 作業改善実行がスムーズに行われる体制が構築されている。 ・ 法人の経営安定志向に向けた活動内容を評価した。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題背景の説明として、台風による被災状況や営農再開に向けた支援の説明があっても良かったと思う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援により環境制御技術の習得が図られてよかったが、まだ収量向上につながっていないことは残念だ。今後、データの活用等が収量・品質の向上に反映されることを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及センター、法人の役割分担等については、普及センター内でも情報共有し、他の法人への普及活動に活かしていきたいと思います。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次作は、作業マニュアルや今作収集されたデータを活用し、収量・品質の向上支援を行っていきます。また、社内の体制がうまく回るよう支援していきます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の報告では、営農再開に向けた支援についても説明したいと思います。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、環境制御技術習得、社内の体制を整備することができたので、次作は、今作で収集されたデータを活用し、収量・品質の向上支援を行っていきます。
<p>(4) 新規課題について 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の確立</p>	<p>4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の園芸振興にとって非常に期待される課題である。収量増加目標に加えて、バリューチェーン全体を最適化し向上させていく視点も求められると考える。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水稻主体の組織が園芸に取り組むのは難しい部分もあると思うが、成果が上がるよう支援に期待する。 ・ まさに町が抱えている課題ということで、この支援はありがたい。まずはモデルということでR3～5他法人への取組の普及（組織作り）までお願ひしたい。 ・ 全国的にみても、えだまめは消費需要がたかいので、モデル的な取組として期待したい。 ・ えだまめ生産のモデルとして注目したい取組である。 ・ えだまめの基本的な栽培技術から安定した生産体系の確立までしっかり支援してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本課題では栽培技術支援だけでなく、関係機関・団体との役割分担により収穫から流通販売まで一体的に支援していきます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水稻、大豆を主体とする土地利用型法人が園芸に取り組む場合、作業の競合が一番の課題だと捉え、労働配分に配慮した生産体系の確立に向けて支援していきます。 ・ 水田農業における高収益作物として、今後えだまめ栽培に取り組もうと考えている法人等にとって現実的なモデルとなるよう支援していきます。
<p>農村の維持発展を支える法人経営の体質強化</p>	<p>3.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化が進行し、後継者不在の集落営農が多いため、この課題は極めて重要である。後継者確保は戦略的な取組があれば十分可能であると思われる。 ・ 10年後、個人の経営でもどうなっているかわからない時代なので、次につながる支援であってほしい。 ・ 秋保地区全体の農村活動維持に係る重要な課題である。よろしくお願ひしたい。 ・ 地域担い手としての総合的な支援ということでのモデルになるかと思う。今後の具体的な支援策に期待する。 ・ 経営を維持していくのが難しい法人が多くあると思われるので支援の方向は良い。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体質強化の課題に向けて、活動事項の具体化が今後さらに必要になるのではないか。何をどうして売上高増加につながるのか明確にした方が良いと思う。 ・ そばの販売支援が課題と感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後継者不足を経営課題に抱えている農業法人は多く、秋保地区の対象法人においても構成員の退役時期や労働力推移等を明確にしながら雇用確保や事業承継を見据えた中長期経営計画を策定しています。経営理念にも掲げている地域農業の存続のためにも経営計画の達成に向けて、総合的に支援していきます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象法人では各部門の損益分岐試算を行っており、規模拡大や園芸品目導入による経営の安定化を目指しています。JA出資型法人でもあることから、JAと連携した販売支援や技術支援等を行っていきます。

<p>「シャインマスカット」の生産・販売力向上による産地育成</p>	<p>4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城の果樹振興を図る上で、極めて重要な課題で成果が期待される。 ・生産性の高いシャインマスカットに絞った取組ということで今後の技術習得、販売戦略確立により農家所得が上がることで産地化することを期待する。 ・新たな作物として普及活動を通じて特産になること、部会での生産拡大につながることを期待している。生産増とPR活動にも注目している（販売会やブランド等の付加価値）。 ・試作的な生産にとどまっている部会員の底上げをし、産地形成が図られていくことに期待する。 ・産地育成までは、まだまだの取組と思われるが、しっかりやれば収益が見込めると思う。 ・県内産の「シャインマスカット」販売は大変だと思いが是非結果を残していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者ニーズを踏まえた上で強みを生かした販売戦略の構築と栽培技術習得を支援し、農家所得向上を目指していきます。 ・対象の農家所得向上により、部会員の生産意欲向上につながると考えられるので、活動の取り組みや成果について効果的に啓発し、波及を図っていきます。 ・産地形成に向けて、安定生産のための技術導入と習得・定着支援を、また、知名度向上のためのPR活動を県内の他地域とも情報交換しながら取り組んでいきます。
<p>その他</p>	<p></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・R 12 に農業産出額 2,288 億円という目標が掲げられているが、市町村・JA 一体となって取り組んでいきたいと思う。特に園芸は倍増でちょっと厳しいが目標は高い方がいいので、頑張っていきたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸作物の生産の安定化・省力化技術の導入等を進め、これらを担う組織経営体等を支援していきます。